

《第12問－3》

加入者等が行う運用の指図等に関する以下の文章の空欄①～⑤に入る語句を、下記の＜語句群＞のなかから選択し、その番号のみを解答用紙に記入しなさい。

「企業型年金加入者等は、運用関連運営管理機関により提示された運用商品の中から、少なくとも（ ① ）に1回、自己の個人別管理資産について、運用の指図を行うことができる。

この場合、加入者等は運用関連運営管理機関が提示する運用商品のなかから（ ② ）のものを選択し、それらに投資する運用額を決定して、（ ③ ）に指図を行う。

加入者等から運用の指図を受けた（ ③ ）は、これらを取りまとめて、その内容を（ ④ ）に通知し、（ ④ ）ではこの通知に基づき、運用商品に係る契約の締結、変更、または解除、その他必要な措置を行う。

なお、企業型年金の運用指図について、従業員の意思に反して事業主が一括して運用指図することは認められない。ただし、個々の従業員の（ ⑤ ）を受けて、その（ ⑤ ）の範囲内で事業主が運用指図を行うことは差し支えない」

＜語句群＞

- | | | | |
|--------------|----------------|---------------|----------------|
| 1. 1年 | 2. 6ヵ月 | 3. 3ヵ月 | 4. 1ヵ月 |
| 5. 1つまたは2つ以上 | 6. 必ず2つ以上 | 7. 必ず3つ以上 | |
| 8. 承諾 | 9. 合意 | 10. 委任 | 11. 記録関連運営管理機関 |
| 12. 資産管理機関 | 13. 運用関連運営管理機関 | 14. 国民年金基金連合会 | |

第4問

リターンは正規分布とし、その期待リターンが10%（年率）である資産への投資に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。なお、 $\sqrt{2}$ は「1.41」として計算すること。

1. この投資の、標準偏差で計測したリスクが20%（年率）であったとき、1年後の実現リターンが、-5.0%から25.0%の間に入る確率は68.2%より大きい。
2. この投資の、標準偏差で計測したリスクが10%（年率）であったとき、1年後の実現リターンが、0.0%から20.0%の間に入る確率はおよそ34.1%である。
3. この投資の、標準偏差で計測したリスクが20%（年率）であったとき、2年後の実現リターン（累積：年率換算せず）が、-7.2%から49.2%の間に入る確率はおよそ68.2%である。
4. この投資の、標準偏差で計測したリスクが10%（年率）であったとき、2年後の実現リターン（累積：年率換算せず）が、5.0%から40.0%の間に入る確率は68.2%より小さい。